

歴史ヒストリア

渋沢栄一

～時代を開く 新一万円の実像～

放送日：2019年10月2日 放送時間：50分



対象校種 小学校高学年以上 中学 高校

対象教科 社会 総合

この番組の良さ

- 近代日本の発展の背景を理解することができる



渋沢史料館 所蔵

渋沢栄一は若い頃、尊皇攘夷運動に参加し、その後は一橋慶喜に仕え、フランスに渡り、産業革命の状況を視察するなど様々な体験をしてきました。番組からは、幕末から明治にかけての近代日本発展の歴史的背景を理解しながら、渋沢栄一が殖産興業を推進していく様子を学ぶことができます。また、地租改正は渋沢栄一が提言したものであり、その地券を自分が造った会社が印刷するなど、近代日本の資本主義の父と言われた渋沢が、明治の歴史の中心として活躍する様子を目の当たりにすることができます。

- 渋沢栄一の生き方を学ぶことができる



新一万円札の肖像画となる渋沢栄一が創立や運営に携わった企業は約500、医療、福祉、学校などの団体は約600にも及びます。この数字を見て児童生徒には「どのようにして多くの企業を設立したのか。」「どのような生き方をしてきたのか。」という問いが生まれ、問題を解決してこうとする意欲が高まります。

番組の視聴を通して、渋沢栄一の山あり谷ありの人生を学ぶことで、自分自身のキャリア形成に役立てることができます。

番組活用のポイント

- 幕末から明治時代の歴史の学習の教材に活用する

本番組は、中学校社会科歴史分野における「近代の歴史」の教材として活用することが考えられます。明治新政府は殖産興業のスローガンの下、官営工場を設立し近代産業の振興を図っていきます。渋沢栄一は最初、大蔵省に勤めながら近代国家に相応しい税制度をつくる仕事に就きますが、その際に、統一通貨を使うことや全国規模の経済圏をつくる必要性を痛感しました。日本の近代化に不可欠な、鉄道、保険、銀行、レンガなどの事業を興すには「株式会社」が必要だと考え、大蔵省の職を辞して、自ら事業を興すこととなります。また、日本初の銀行である「第一国立銀行」や「抄紙会社」を設立し、経営者となるなど、日本の近代化に奔走します。

渋沢栄一が設立した企業や学校、各種団体などを1人1台端末などで調べることで、現在日本にある企業や大学などにつながっていることを理解し、歴史の学習に興味をもって臨むことができるでしょう。そして、近代日本が発展していく様子を、渋沢栄一の活躍と共に学んでいくことができるでしょう。

- 渋沢栄一の生き方から自らのキャリア形成について考える


番組では、渋沢栄一の歩んできた道のりが紹介されています。エピソード1では、裕福な農家に生まれ、小さい頃から読む書きそろばんを習ったことや、16歳の頃には「武州自慢鑑藍玉番付表」を作り、藍玉の栽培において地域全体を向上させる仕組みを整えたことが紹介されています。このことから、基礎学力を身に付け、知恵を絞り努力する姿勢が、自らのキャリア形成に大切だということが理解できます。エピソード2では、一橋家の年貢米の売り方や綿花の出荷の仕組みを変えて、農民たちを富ませつつ、一橋家にも利益が出る方法を実行したことが紹介されています。また、フランスで株式会社の仕組みを学び、後に多くの会社設立に活かしていくことが紹介されています。そして、エピソード3では、地租改正の体制づくりに尽力し、その後大蔵省を辞め、自ら事業を興していくことが紹介されています。渋沢栄一が藩の改革を大胆に実行したり、ビジョンと信念をもち、新しい時代を切り拓いて活躍したりする姿に、「新しい時代を切り開いていくためには何が必要か」を、自分の将来と照らし合わせて考えることができます。



執筆者
藤里町立藤里中学校
教諭 嵯峨静人

500の企業をつくった渋沢栄一

【授業時間 50分×2】 まるごと視聴

児童生徒の思考と活動の流れ	教師の支援と評価
<p>渋沢栄一が創立や運営に携わった企業500、医療、福祉、学校などの団体が600ありました。このことを皆さんはどう思いますか。</p> <p>創設した企業や団体の数が多すぎてすごい</p> <p>今もこれらの企業や団体は存在するのだろうか</p> <p>なぜこれほどの企業や団体を設立しようとしたのか</p> <p>渋沢栄一とはどのような人物だったのだろうか</p> <p>渋沢栄一は、なぜ多くの企業や団体を設立しようとしたのだろうか</p> <p>国の役人として設立したのではないかな</p> <p>元々商売をしている家系を継いだのではないかな</p> <p> 番組全視聴50分</p> <p>どのような人物であったか</p> <p>会社設立に大きな影響を与えたことは何か</p> <p>人生の中でどのような努力をしてきたのか</p> <p>商才あふれる農民、幕末の志士、一橋慶喜の家臣、大蔵省の租税正、第一国立銀行の経営者など</p> <p>14歳から商売に携わったこと、また、一橋家の財政の改善を行ったこと、フランスで産業革命の様子を視察し、株式会社の仕組みを学んだこと。</p> <p>若いときに藍玉を工夫して販売する。また、一橋家の財政の改善を行った。そして地租改正を推進し、必要性から多くの事業を起こしてきた。</p> <p>渋沢栄一は、どのような思いで数多くの企業や団体を設立してきたのか話し合う</p> <p>日本の国を世界に通用する国にしたいと考えたのではないかな</p> <p>国民全員が豊かになることを目指したのではないかな</p> <p>渋沢栄一は、株式会社を設立することが民衆を豊かにできる最大の方法であると考え、利益を分け合い、社会的平等の実現を目指した。また、政治、経済を道徳と一致させ真正なる世界平和を目指した。</p> <p>渋沢栄一が創設した企業の現在の状況を調べてみたい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新一万円札（見本を提示し、知っていることを尋ねる。 ・渋沢栄一が設立した企業や団体の例、その数を伝えた上で意見を聞き、問題意識を醸成していく。 ・疑問を生かして、生徒の言葉で学習問題を設定する。 ・生徒の求めに応じて番組を全視聴するが、視聴するエピソードが3つに分かれていることを伝え、次の3点に留意しながら視聴するように伝える。 <ol style="list-style-type: none"> ① どのような人物であったか ② 会社設立に大きな影響を与えたことは何か ③ 人生の中でどのような努力をしてきたのか <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの企業や団体を設立した渋沢栄一の生き様や努力を番組視聴により考察し、発表することができる。また渋沢栄一の経営理念や人生訓を自分の言葉でまとめることができる。